



◎政府インターネットテレビ『徳光・木佐の知りたいニッポン～守りつなぎ広める日本の心 和食』で和食器の給食、出前授業の様子が放送されています。

女子栄養大学短期大学部非常勤講師  
資源と環境の教育を考える会「エコが見える学校」  
関東学院大学非常勤講師  
三信化工株式会社

## 海老原誠治

えびはら せいじ

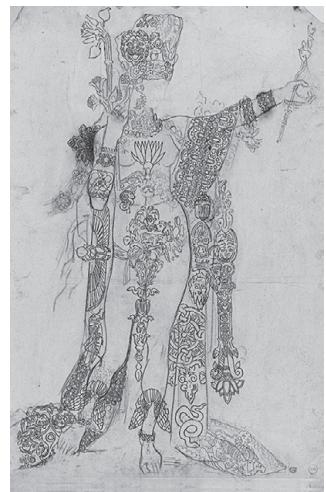
佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業大学校・常勤講師を経る。

# 文化の敬い・影響、モロー展から

「美は、眼にある」と言ったのは骨董と美に生きた青山二郎(美術評論家、装丁家)。器であれ自然であれ、ある【モノ】に対し、美しいと感じる人がいる一方で嫌に感じる人がいる以上、その【モノ】には絶対的な美は存在せず、美を感じる眼に美は存在するとのことであれば、きっと文化も個に存在するかもしれません。絶対的な善しあしなど文化ではなく、それぞれに違った価値観があり、個々が選んだ結果の集合に過ぎないのでですから。異文化の敬いと影響を個の眼から考えたいと思います。



②《サロメ》(1875年ごろ)  
Photo©RMN-Grand Palais / Christian Jean / distributed by AMF



③《踊るサロメ（刺青のサロメ）のための習作》※東京会場のみ出品  
Photo©RMN-Grand Palais / René-Gabriel Ojeda / distributed by AMF

①《出現》(1876年ごろ)  
Photo©RMN-Grand Palais / René-Gabriel Ojeda / distributed by AMF

ポニズムとして注目され、ゴッホ、ルノアールをはじめ多くの画家に影響を与えます。モローも、葛飾北斎によるスケッチ画集『北斎漫画』をそろえ、東洋に関する美術展へ聖観音・不動明王などをデッサンするため足しげく通い、日本から決して少なくない影響を受けています。

サロメや『一角獣』の、女性の素肌に宝飾をまとう表現や、白い蓮の花を持つサロメの仕草・うつむき気味のたたずまいには、観音像の影響が指摘されています（2000・2014、隠岐由紀子）。ヨーロッパの神話・聖書を題材にしながらも、東洋文化やジャポニズムを詰め込んだモローは、異文化理解・尊重の一つの見本といえます。

## 学習指導要領における文化

学習指導要領から異文化は、どのように捉えられるでしょうか。小学6年社会科では、旧指導要領に「つながりが深い国の人々の生活の様子」、新指導要領には「多様であることを理解～中略～異なる文化や習慣を尊重し合う」とあります。解説を見ると新たに【日本の文化や習慣との違いを捉える】という表現が出てきます。これからは日本・海外の文化を単になぞるのではなく、また文化の優劣を競い日本の文化を賛美することではない教育が求められます。

例えば、食に対する感謝の仕方で文化の違いを捉えるのであれば、日本では感謝を食材 자체と自然全体に向けるのに対し、キリスト教圏では食材を恵む唯一の“主”に対して行い、感謝する対象が違います。

また、日本では手に持つ器と箸の組み合わせというシンプルで少ない道具で食を満たすことができ、ナイフ・フォーク・スプーンと洋食器の組み合わせは複雑な構成ながら、簡単な操作性でステーキにも対応でき

るなど、できることが広がります。このような比較文化の視点での理解を伝えることが必要だと思います。

異文化理解の結果、何が生まれるのでしょうか？ 時に敬い、受け入れ、影響が及びます。飛鳥時代には唐草文様、奈良時代には砂糖、南蛮貿易では金平糖など、多くの文化を日本は敬い受け入れます。一方、日本が与えた影響では、近年ではすしや回転ずしのシステム、19世紀では今回ご紹介したジャポニズムなどが挙げられます。

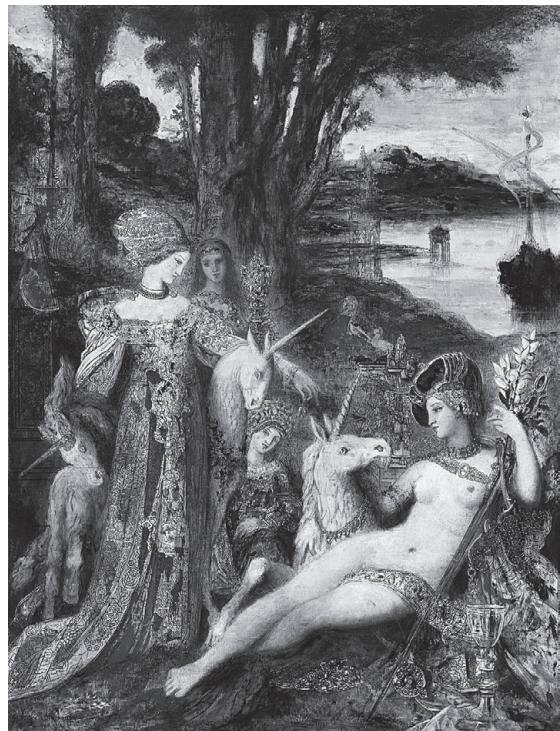
きっと、影響を受けた個々が選んだ結果の集合が、新たな文化なのでしょう。異文化との理解・敬い・影響、もう少し調べたいと思います。

ギュスターヴ・モロー展—サロメと宿命の女たち—  
※東京展・大阪展チケットプレゼント（詳細は101p）

2019年4月6日～6月23日；パナソニック汐留美術館（東京）

2019年7月13日～9月23日；あべのハルカス美術館（大阪）

2019年10月1日～11月24日；福岡市美術館（福岡）



④《一角獣》(1885年ごろ) Photo©RMN-Grand Palais / René-Gabriel Ojeda / distributed by AMF

①～④；ギュスターヴ・モロー美術館蔵